

研究成果の刊行

研究成果の刊行に関する一覧表

(雑誌)

No	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年
1	柿木保明	舌苔と口腔ケアと食事援助	臨床看護	29-4	457-460	2003
2	柿木保明	口腔乾燥の現状—口腔乾燥の病態と頻度	デンタル ハイジーン	2003 別冊	33-37	2003
3	柿木保明	口腔乾燥の現状—口腔乾燥症の臨 n 床像	デンタル ハイジーン	2003 別冊	38-41	2003
4	柿木保明	唾液と口腔乾燥の調査・診断・処置方針 ①唾液分泌低下と口腔乾燥症の診断基準 ②唾液分泌低下と口腔乾燥症の検査 ③診断結果と処置方針の選択	デンタル ハイジーン	2003 別冊	53-66	2003
5	柿木保明 安細敏弘	口腔乾燥への対応法 —口腔乾燥患者の口腔ケア・舌ケア	デンタル ハイジーン	2003 別冊	70-73	2003
6	柿木保明	口腔乾燥への対応法 —唾液からみたリハビリテーション	デンタル ハイジーン	2003 別冊	74-77	2003
7	高橋 哲 柿木保明	口腔乾燥への対応法 —口腔乾燥症における薬物療法	デンタル ハイジーン	2003 別冊	78-81	2003
8	柿木保明	口腔乾燥への対応法 —人工唾液による症状改善	デンタル ハイジーン	2003 別冊	82-83	2003
9	井上睦子 柿木保明	専門病院としての対応 —国立療養所南福岡病院の場合—	デンタル ハイジーン	2003 別冊	92-95	2003
10	柿木保明	口腔乾燥症	ザ・クインテッセンス	22-8	55-64	2002
11	柿木保明	口腔乾燥症の原因	歯界展望	別冊	178-179	2003
12	柿木保明	口腔乾燥症の対応のポイント	歯界展望	別冊	180-181	2003
13	柿木保明	口腔乾燥症のW h y & H o w	看護学雑誌	67	1153-1195	2003
14	柿木保明	これからの中年期口腔ケア 加齢による口腔の変化② 唾液分泌の変化	JJNスペシャル		46-47	2003
15	柿木保明	これからの中年期口腔ケア 加齢による口腔の変化③ 口腔内の細菌叢の変化	JJNスペシャル		48-50	2003
16	柿木保明	これからの中年期口腔ケア 加齢による口腔の変化④ 口腔環境の変化と口腔の汚れ	JJNスペシャル		51-52	2003
17	柿木保明	口腔乾燥症と唾液分泌低下症候群 —診断と治療フローチャート—	歯界展望	103-1	39-46	2004
18	柿木保明 中村誠司 小関健由	唾液検査の実際と診断のポイント	歯界展望	103-1	47-52	2004

19	柿木保明	口腔乾燥症の臨床－診断と治療のガイドライン 検査結果からみた口腔乾燥症の治療法選択	歯界展望	103-2	262-269	2004
20	柿木保明	口腔乾燥症の臨床－診断と治療のガイドライン 口腔乾燥症に対する薬物療法	歯界展望	103-2	270-273	2004
21	柿木保明	口腔乾燥症の臨床－診断と治療のガイドライン 口腔乾燥症の治療効果の判定	歯界展望	103-2	278-280	2004
22	柿木保明	口腔乾燥症の臨床－診断と治療のガイドライン 口腔乾燥症の保健診療の流れ	歯界展望	103-3	598-599	2004
23	柿木保明	口腔乾燥症の臨床－診断と治療のガイドライン 院内で用いる関連資料	歯界展望	103-3	600-603	2004
24	柿木保明	口腔乾燥症の臨床－診断と治療のガイドライン 口腔乾燥症Q & A	歯界展望	103-3	614-615	2004
25	柿木保明	唾液湿潤度検査紙を用いた高齢障害者の口腔乾燥度評価に関する研究	障歯誌	25	11-17	2004

20030240

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

編集後記

高齢者の口腔乾燥症と唾液物性に関して、平成13年度から総合的な研究を開始し、高齢者における口腔乾燥症状の発現頻度が考えられていた以上に高いことが認められた。そこで、本研究事業では、より客観的に口腔乾燥度や唾液の物性を評価する方法を中心に、臨床的および基礎的研究を進めた。

本年度は最終年度でもあり、高齢者における臨床症状の客観的評価とその臨床の現場における有用性について研究を進めた。

高齢者における口腔乾燥は、う蝕の増加や歯周炎の悪化、食事機能の低下、味覚障害、嚥下障害、意欲低下などとも関連しており、とくに誤嚥性肺炎の予防の意味からも、高齢者では見逃せない症状である。唾液湿润度検査紙や口腔水分計といったこれまでにない新しい評価器具を用いることで口腔乾燥症や唾液分泌低下症の臨床判断が容易にできるようになることも本研究事業で明らかになった。また、唾液の粘性亢進も口腔乾燥症の前駆症状であることも多く、本研究で開発協力した曳糸性測定器等による簡便で客観的な測定技術も確立した。

本研究事業の研究成果が、口腔乾燥や唾液分泌低下の実態を明らかにし、また、客観的評価により、口腔乾燥に関連した症状や疾患の診断治療に役立てば望外の喜びである。

最後になりましたが、本研究事業に対しまして、種々ご協力頂いた皆様、ご助言をいただきました皆様方に、心より御礼申し上げます。

主任研究者 柿木保明

(国立療養所南福岡病院歯科医長)

厚生労働科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

高齢者の口腔乾燥症と唾液物性に関する研究

平成15度研究報告書

発行日 平成16年3月31日

発行者 主任研究者 柿木保明(国立療養所南福岡病院歯科医長)

〒1811-1394 福岡市南区屋形原4-39-1

国立療養所南福岡病院歯科

TEL(092)565-5534 FAX(092)566-0702

印 刷 陽文社印刷

福岡市南区大楠2-4-10 (092)522-0081